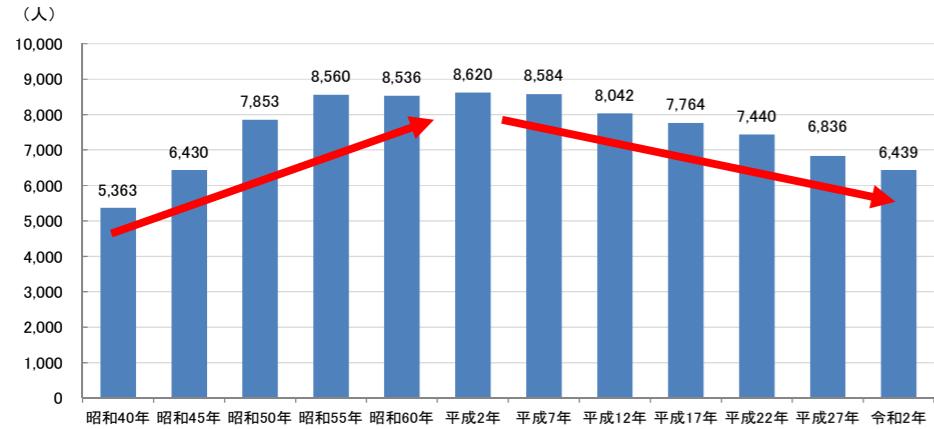


町の主要な現状と課題

1 町の概況(統計調査等)

(1) 人口の推移

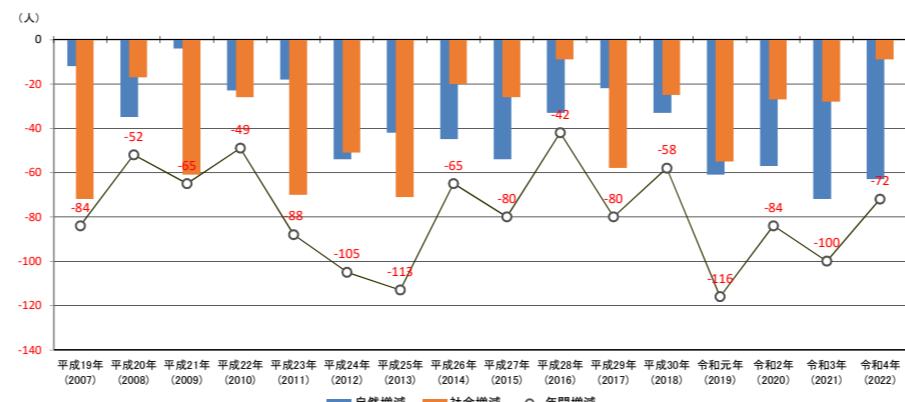
- 人口は平成 2(1990) 年をピークに減少傾向。
- 平成 2(1990) 年から 30 年間で約 2200 人減少。



人口の推移

(3) 人口の推移

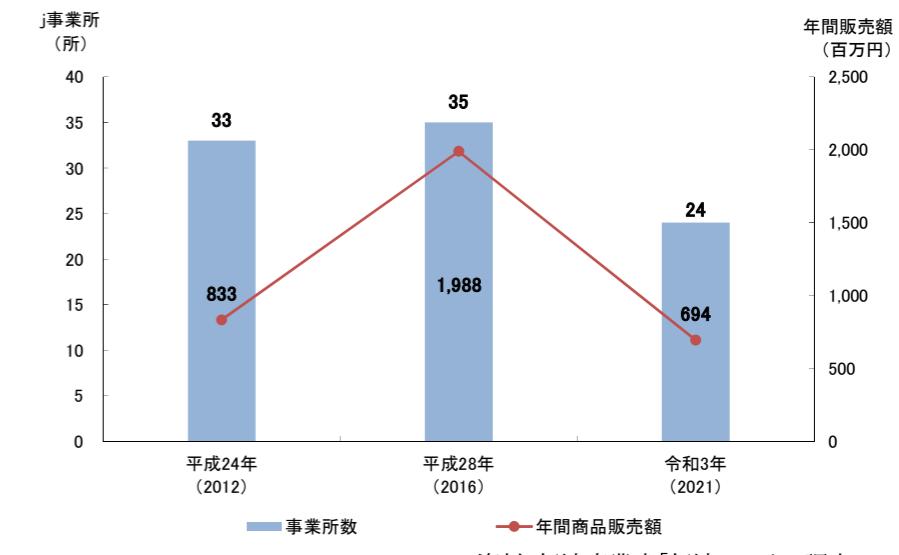
- 平成 25(2013) 年までは転出超過が多く、令和 2(2020) 年以降は概ね自然減が突出。



人口動態の推移

(5) 小売業の推移

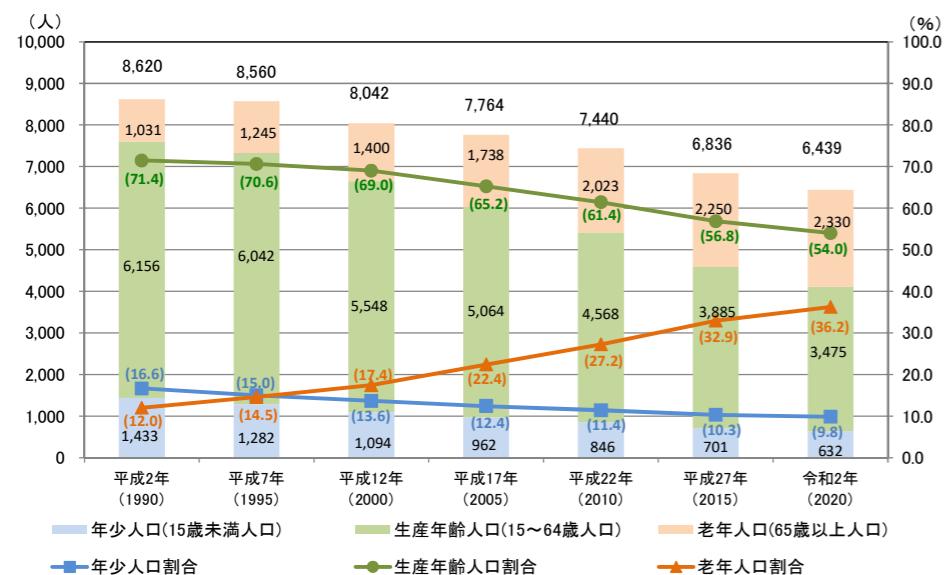
- 小売業事業所は平成 28(2016) 年から 11 事業所減、年間商品販売額は大きく減少。



小売業の推移

(2) 年齢 3 区分人口の推移

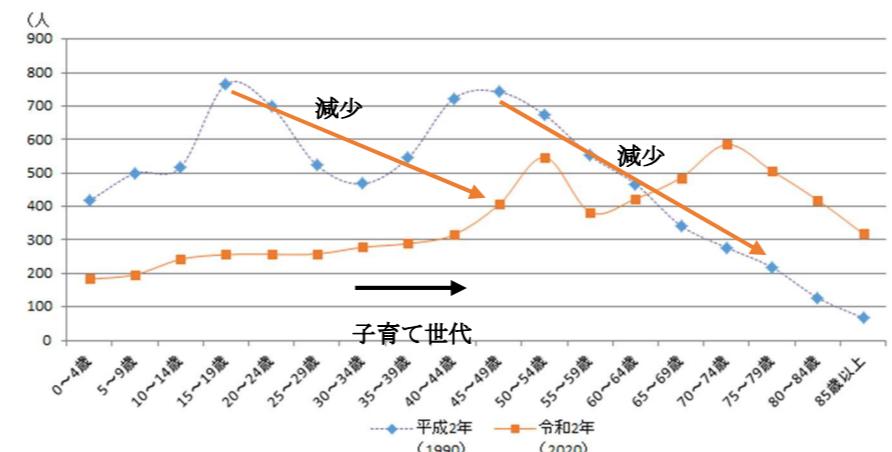
- 30 年間で生産年齢人口(15~64 歳)は 2,700 人減、老人人口(65 歳以上)は約 1,300 人増。



年齢 3 区分人口の推移

(4) 人口移動の推移

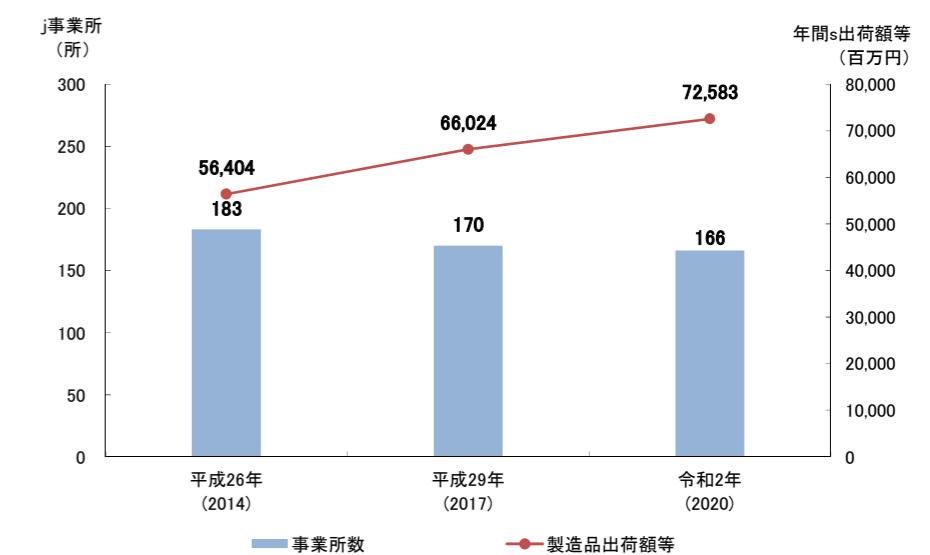
- 平成 2(1990) 年の 15~19 歳は 765 人で、30 年後の令和 2(2020) 年には半減(406 人)。
- 子育て世代(30 歳~44 歳)は平成 2(1990) 年で約 1,700 人、令和 2(2020) 年では約 900 人。



人口動態の推移

(6) 製造業の推移

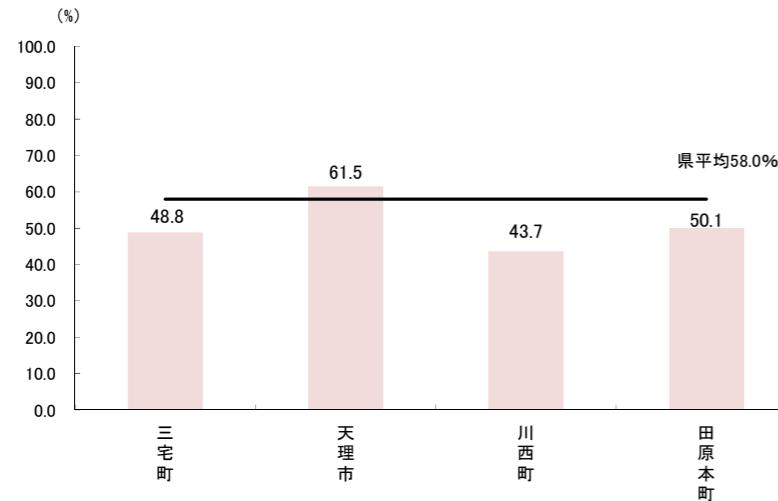
- 製造業事業所は平成 26(2014) 年から 17 事業所減、年間製造品出荷額等は増加傾向。



製造業の推移

(7)幹線街路の改良率

○幹線街路の改良率は48.8%で県平均58.0%を下回る水準。

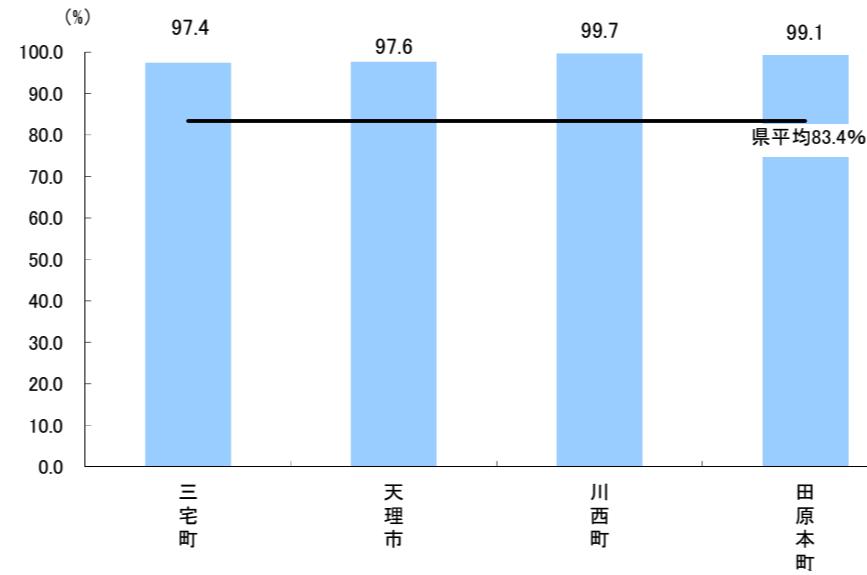


資料:国土交通省「都市計画現況調査(R5年度末)」

幹線街路改良率

(9)汚水処理人口普及率

○汚水処理人口普及率97.4%で県平均83.4%を上回る水準。



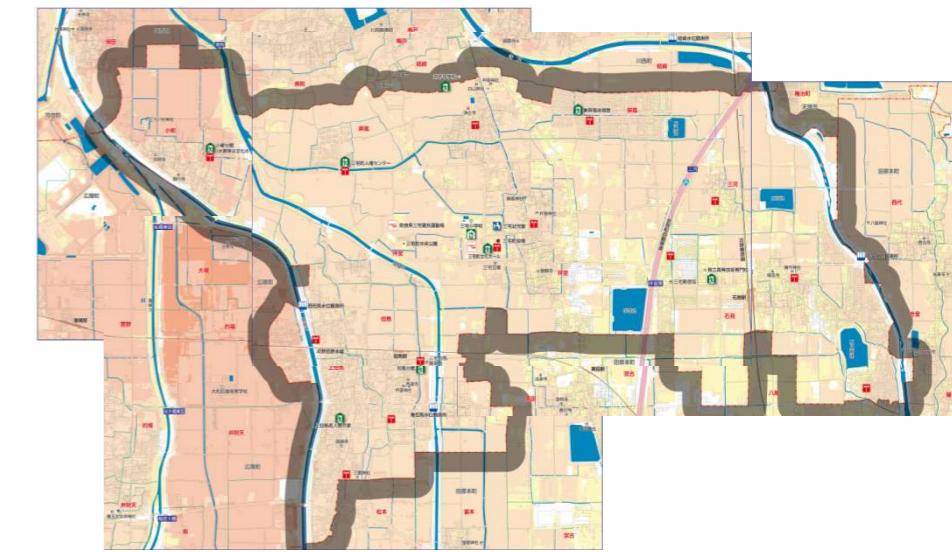
資料:奈良県(R5年度末)

汚水処理人口普及率:汚水処理人口普及率 = 処理人口(整備され処理可能な区域の人口)/行政人口(住民基本台帳ペースト)

汚水処理人口普及率

(10)災害想定

○洪水浸水区域想定区域(想定最大規模)は、町西北部に垂直避難が困難な区域(浸水深3m以上)が存在。

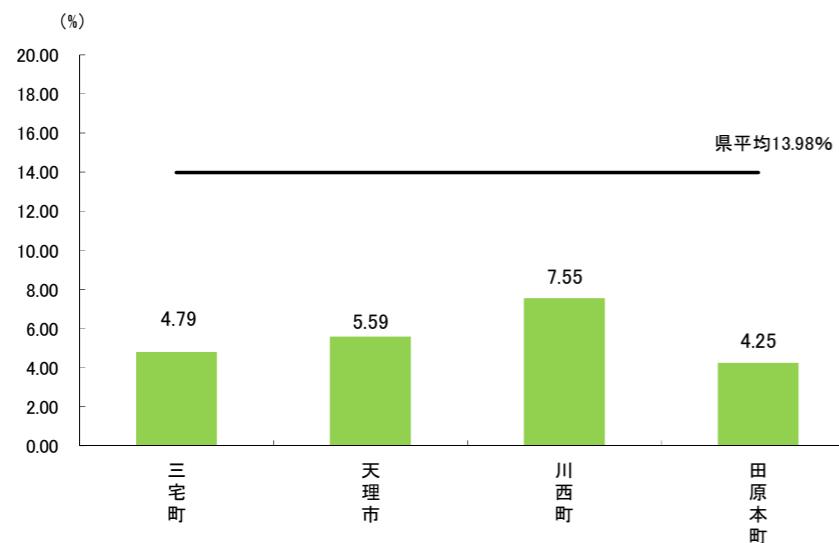


資料:町ハザードマップ

洪水ハザードマップ

(8)都市公園の整備面積

○町民一人当たり都市公園整備面積は公園4.79 m²/人で、磯城郡では同程度の水準。



資料:奈良県統計年鑑(R5年度末)

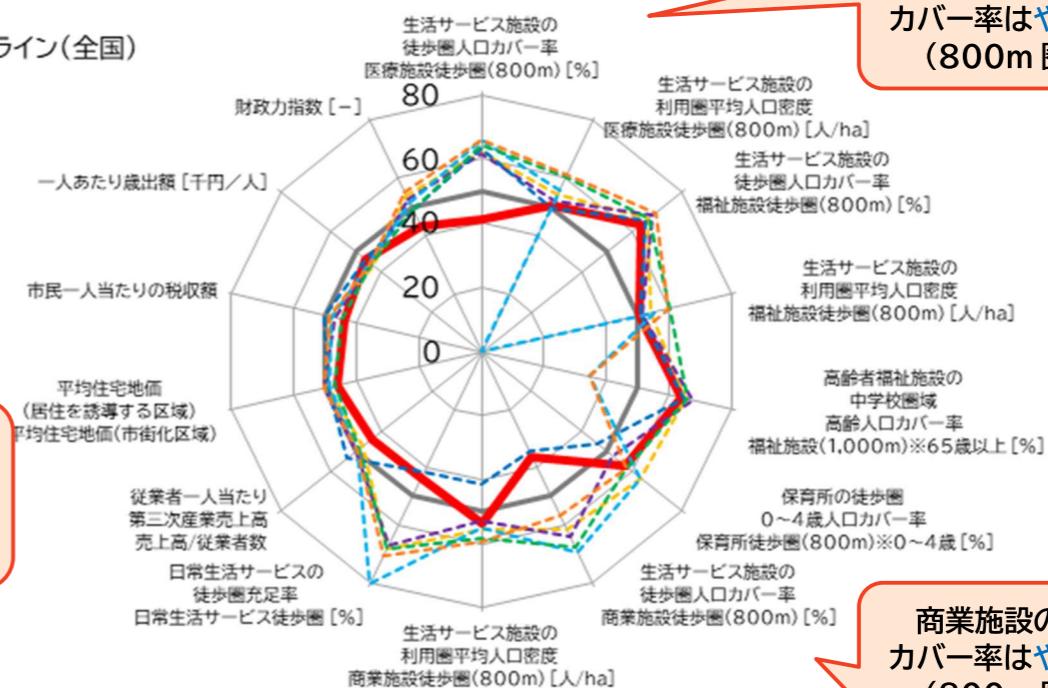
都市公園の整備面積

(11)都市構造評価(近隣町との比較)

偏差値50ライン(全国)

- 三宅町
- 広陵町
- 田原本町
- 川西町
- 河合町
- 上牧町
- 王寺町

持続可能な都市経営の指標である地価や財政等は全国平均と比べて同水準



医療施設の人口カバー率はやや低い
(800m 圏域)

商業施設の人口カバー率はやや低い
(800m 圏域)

資料:国土交通相「モニタリングシート」

2 都市づくりの主要課題

町の主な現状	
人口	<ul style="list-style-type: none"> ○人口は平成 2(1990)年をピークに減少傾向。 ○30 年間で生産年齢人口(15~64 歳)は 2,700 人減、老人人口(65 歳以上)は約 1,300 人増。 ○平成 25(2013)年までは転出超過が多く、令和 2(2020)年以降は自然減が突出。 ○子育て世代(30 歳~44 歳)は平成 2(1990)年で約 1,700 人、令和 2(2020)年では約 900 人と約 800 人が減少(田原本町、奈良市、天理市への転出が多い)
産業	<ul style="list-style-type: none"> ○小売業事業所は平成 28(2016)年から 11 所減、年間商品販売額は大きく減少。 ○製造業事業所は平成 26(2014)年から 17 所減、年間製造業出荷額等は増加傾向。
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ○都市計画区域人口に対する市街化区域人口割合は約 92%(R2 年)、人口密度は約 38 人/ha(H27 年)から 43 人/ha に増加し、コンパクトな市街地を形成。 ○石見駅周辺の県有地活用について、県で検討中。 ○町域の民有地(R5 年)は農地が約 55%、宅地が約 36%。経営耕地面積は H27 年から R2 年の 5 年間で約 6ha 減少。
道路交通	<ul style="list-style-type: none"> ○町東側に南北に京奈和自動車道(三宅 IC)と国道 24 号バイパスが整備され、これらにアクセスする(都)大和郡山川西三宅線は事業中。 ○町内のネットワークを形成する幹線道路が整備されておらず、幅員の狭い生活道路が多い。 ○町内には近鉄橿原線石見駅と田原本線但馬駅の 2 駅が設置されており、隣接する川西町の結崎駅、田原本町の黒田駅も徒歩圏。 ○R4 年度の年間鉄道乗車人員は石見駅が約 35 万人、但馬駅が約 11 万人で、石見駅は新型コロナウィルス感染症の影響を受けたものの、但馬駅は減少傾向が継続。 ○町内でバスは運行されておらず、町ではタクシーの利用料補助を申請交付。
都市基盤	<ul style="list-style-type: none"> ○都市計画道路は 4 路線で、このうち幹線街路の改良率は 48.8%で県平均 58.0%を下回る水準。 ○町民一人当たり都市公園整備面積は公園 4.79 m²/人で、磯城郡では同程度の水準。 ○汚水処理人口普及率 97.4%で県平均 83.4%を上回る水準。
住宅	<ul style="list-style-type: none"> ○持家率は 83%(R2 年)で、川西町、田原本町を上回る。 ○空き家が増加しており、町では老朽危険空き家解体補助金を申請交付。
防災	<ul style="list-style-type: none"> ○洪水浸水区域想定区域(想定最大規模)は、町西北部に垂直避難が困難な区域(浸水深 3m 以上)が存在。
自然文化	<ul style="list-style-type: none"> ○飛鳥川・曾我川・寺川の肥沃な流域に拓けた田園地帯。 ○周濠を持つ前方後円墳の遺跡が町内に数多く存在。 ○聖徳太子ゆかりの「太子道」が南北に通り、条理制の名残が広範囲にみられる。 ○靈峰金剛・葛城の山並みの眺望。環濠集落や社寺林などの歴史景観や、河川、ため池の水辺景観、田や畠の田園景観が形成されている。
環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ○二酸化炭素排出量の合計は、2 万 5 千トン-CO₂で磯城郡 3 町で最も少ない。 ○ごみのリサイクル率は 14.4%(R4 年)で県平均とほぼ同様。
町民意向	<ul style="list-style-type: none"> ○「住み続けたい」は R7 年調査で約 54%、H28 年調査から約 11 ポイント増、「住み続けたくない」は約 10%で、約 7 ポイント減。 ○町の住みやすさは、“愛着を感じるところ”と“自然環境が良いところ”が突出。 ○人口減少・少子高齢化に影響は、空き家の増加や地域の担い手の減少、財政負担を懸念。 ○「コンパクトに集約したまちづくりの必要性は、“どちらかと言えば必要”を含む必要な意向が 5 割を超えており、“わからない”も約 26%と多い。 ○防災の取組は、洪水対策や避難体制の確保等が求められている。 ○防災情報に周知は、洪水ハザードマップ、避難場所の認知度が高い一方、安心・安全メールや自主防災組織の活動の認知度が比較的低い。 ○自由意見では、特に商業施設等(施設の確保等)に対する意見が多い。

上位計画	
三宅町総合計画(平成 30(2018)~令和 9(2027)年)	上位計画
<p>【基本理念】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①つながり、支え合い、安心できるまちをめざす ②出会い、高め合い、豊かな交流のあるまちをめざす ③郷土愛を育み、未来への希望を創造するまちをめざす <p>【将来像】</p> <p style="text-align: center;">～万葉の花、あざさが咲き誇る～ 慈愛の風薫り、未来に光射す きらめきのまち、みやけ</p>	
<p>大和都市計画及び吉野三町都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針 (令和 4(2022)年~令和 12 年(2030) 年)</p> <p>【県の都市づくりの方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①特徴ある魅力を活かし風格と美しさを高める都市づくり ②ライフステージごとに元気に暮らすことができる都市づくり ③持続的な発展を可能とする環境共生型の都市づくり ④地域の活力を創造し育む都市づくり ⑤安心・安全な居住環境と強靭さを備えた都市づくり ⑥住民と行政の共創による都市づくり 	

